

新川和江賞

「伝統の田植え」

城西小学校 五年 須藤 啓太

やわらかい風が吹き  
いよいよはじまった  
にゆるにゆる、ずぼずぼ、重い足  
代かきあとの田んぼは、そう、  
どろどろチョコレート  
ぼくたちの足を誰かに  
つかまれ、はなされ、つかまれ、はなされ  
キラキラと元気に輝く苗  
ひとかぶ、ひとかぶ、植える  
友人その一、ゲラゲラ笑い  
友人その二、いつの間にか真つ黒泥人間  
友人その三、わざところんでひと泳ぎ  
ぼくたちのつやつや、かわいい苗達よ  
負けるなよ  
ジリジリとガンガン照りつける  
でっかい太陽にも  
しとしと雨降りにも  
これからやってくる台風にも  
ぼくたちのパワーを受け取って  
黄金色の世界を見せてくれ

評

私たちの国日本は、大昔から「豊葦原とよあしはらの瑞穂みずほの国」と呼ばれて、やわらかく土をほぐした田に水を張り、稲の苗を植える「田植え」を、農業の中でも一番重要な行事として、村じゅう総出で行われたものでした。時代が変わり、今は田植え機にまかせ、働き手の多くは、すぐに現金収入の得られる職場につとめるようになりました。けれども「瑞穂の国」の子孫である須藤啓太くんたちの学校には、田んぼもあり、先祖たちのように、泥にまみれての田植えを、生徒たちに体験させていることは、すばらしい教育だと、感服せずにはいられません。

泥田の中で、〈足を誰かに／つかまれ、はなされ、つかまれ、はなされ〉というところなど、じっさいに体験してみなければ書けない表現で、須藤くんの足は、大人になってもこの感触を忘れないでしょう。友人たちのようすの描き方にもユーモアがあり、それより何より、植えつ

けた苗に対する愛情と祈りが、苗にも通じて、秋には必ず〈黄金の世界〉を見せてくれるでしょう。

あ、この詩が活字になる頃は、すでに輝くようなお米になっていて、クラスの皆さんは、おいしい「おむすび」を頬ばっていらっしやるかも知れませんね。

### 優秀賞

そらをとんでみたら

結城小学校 一年 根本 一花

「すごいゆめみちやった」

めをさましたわたしのしんぞうは

ドキドキしていた

とりたいにりようてをひろげとんだ

とりといっしょにおにごっこをした

やねのうえでならんでひなたぼっこもした

だれかのなきごえがきこえて

てをのばしてひこうきみたいに

びゅうんととんだ

くもをくぐってぐんぐんとんだ

こまってるひとをせなかにのせて

まるでヒーローみたいだった

いつのまにかゆうがたになっていた

そらはおかあさんのふわふわのセーターみたいなオレンジだった

めをさましたわたしは

となりにねているおかあさんに

おでこをこすりつけた

なんだかあったかくていいにおいがした

評

こんなすてきな夢をみたら、朝の目ざめがどんなにか気持ちがいいだろうな、とうらやましく思いました。私なんて、学校にちこくしそいで、道を走りつづけている夢からさめて、ほっとしている朝が、今でもあるんですから。ねもとさんが、私の夢の中に入ってきてくださったら、きっと、へせなかにのせてへくもをくぐってぐんぐんとんで、学校へ送りどけてくださったでしょうね。こんど、ほんとうにおねがいたします。

優秀賞

ぼくのしごと

結城西小学校 一年 白井 鳳笙

「じいちゃん、はやくいこう。」

「はいよ」

ぼくはおきにいりのじてんしやを

おもいつきりこぐ

めざすは じいちゃんのはたけ

たいようがしずむ すずしいじかん

ぼくのしごとのじかんだ

チクチクいたい きゆうり

いつもみのがして おおきくなっている

ピカピカおなかとあたまにとげがついた

なす

まいにちすぐにおおきくなってしまふ

みどりだらけでぼくのながてな ピーマン

おもいだすだけでくちのなががにがくなる

ぼくのたんとうの やさいたち

いえにかえると ママがまっている

しんせんやさいたちがかわっていく

そして ぼくのおなかへ  
やさいたちがぼくのえいようになっていく  
みんなありがとう

評

うすいくんは、まだ一ねんせいなのに、じてんしやをへおもいつきりこいで、おじいちゃ  
んのやさいばたけへおてつだいで行くのですね。都会とかいの一ねんせいがこの詩をよんだら、ぼく  
も行きたいなあ、とうらやましがることでしょう。きゅうりや、なすや、ピーマンが、テレビ  
で大うつしされるように描えがき出されていますので、読んでいてこちらの手もチクチク痛いたいよう  
に感じとれます。とれたてのしんせんなやさいが、お母さんの手でりょうりされて、夜にはも  
う、うすいくんのおなかにおさまってしまうのですから、れいぞうこからしなびたやさいをと  
り出して料理りょうりする私だって、とてもとてもうらやましい。

優秀賞

ろっくのひ

江川南小学校 一年 立會 遥真

はちがつじゅういちにち やまのひ  
でも ぼくは ろっくのひとよんでいる  
きよねんのやまのひ  
かぞくの ろっくがしんでしまった

ろっくは ぼくがうまれるまえから  
うちで かわれていた きつねにたいぬ

ろっくと ぼくは なかよし  
いっぱいあそんで さんぽもいった  
ぼくたちのしゃしんも いっぱいあつて  
ろっくが あかちゃんあかちゃんのぼくに かおを  
ちかづけているしゃしんを みたとき  
ぼくは なみだが あふれてしまった

ろつくは いえのにわのすみに  
ねむっている

ことしのろつくのひ  
ぱばと おせんこうをあげた

ろつくにあいたいな

みえないけど おぼんだからろつくも  
ごせんぞさまとかえってきて にわを  
はしっているかも と きいて  
ぼくは めをりようてでごしごしした

## 評

ろつくというのは、はるまくんがあちゃんのと時から家ぞくの一人だった、わんちゃんなのでですね。八月十一日は、カレンダーにも「山の日」と出ていますが、去年の山の日にろつくが死んでしまいましたので、この日はろつくのお命日。

しゃしんを見せていただいたわけではありませんが、きつねににいたというわんちゃんのがたは、思いえがくことができます。へろつくは いえのにわのすみに／ねむっているという行を読んだ時、私も、涙ぐんでしまいました。ごせんぞさまのれいと同じく、ろつくのれいも、はるまくんのことを、守っていてくれることでしょう。

## 優秀賞

ぼくのうちゅう

絹川小学校 三年 篠崎 海里

ぼくのうちゅうは

どこまでもどこまでも広がっている  
まっくらなやみの中で  
光りがやくたくさんの星

ぼくのうちゅうでは

大きくてあつい太陽が  
ぼくにエネルギーをくれる  
弱気になったぼくのせなかを  
がんばれ!! がんばれ!! とおしてくれる

ぼくのうちゅうでは  
おだやかな月が  
ぼくをやさしい光でつつんでくれる  
とげとげになったぼくの心を  
まあるくまあるくしてくれる

ぼくのうちゅうには  
おそろしいブラックホールがひそんでいる  
大きくあいた入口が  
強い力でぼくのすべてをすいこもうとする  
ぼくはかがやく星に手をのばし  
光の中へだっしゅつする

ぼくのうちゅうでは  
毎日たくさんの星がかがやき  
ぼくにキラキラの思い出をくれる  
そしてまた  
どこまでもどこまでも広がっていく

## 評

計りようもない広大な宇宙を、「ぼくのうちゅう」と個人の領地のように考えておられるところが、たのもしい。それでも、弱気になったり、とげとげしい心になったりすることもあるようで、はげましたり、なぐさめたりしてくれるのが、これまた太陽だったり月だったりするので、ごうせいです。

おそろしいブラックホールもあるそうですから、吸いこまれないよう、気をつけて。

キラキラかがやく星たちが友だち。「海里かいりくーん」などと、うちゅうでは、親しまれているではありませんか。今夜も夢で、うちゅうさんぽをしてください。

優秀賞

今を大切に

上山川小学校 五年 山中 聖心

朝日が東からのぼり一日が始まる

一秒一秒時計の針は止まらない

昨日の私にはもう会えないよ。

明日の私にもまだ会えないよ。

今 たくさん勉強しよう

今 たくさん遊ぼう

今 たくさん笑おう

二度ともどつてはくれない今の時間

私は大好きな家族と心に残る思い出を

たくさんたくさん作るんだ

一年三百六十五日笑顔で過ごすため

今 声に出して伝えよう

今 文字にして伝えよう

「お父さん、お母さんアリガトウ」

「これからもまたどうぞヨロシクね」

今は二度ともどつてはくれないのだから

私も今ここから

新しい自分に会いに行くよ…

評

悪い子のことばかり、新聞などでは問題にするけれど、こういういい子もいるんだ、と感心してしまいました。詩というものは、いい事ばかり並べても、いい詩になるというものではなく、悪いことばかり並べても悪い詩になるというわけでもなく、やっかいな文学ぶんがくですが、ぼろっと出た本音ほんねが、全体を生かしている詩にしてくれる場合があります。この詩で言えば、結びの二行でしょうか。(私も今ここから／新しい自分に会いに行くよ、そう、こう来なくっちゃ。行つてらっしゃーい。ここからいきいきとしたあなたの詩がはじまります。)

優秀賞

ひかる

結城南中学校 一年 山中 美優

ギラギラきらめく太陽  
のたうちまわる稲光  
しっとりゆらめく朧月  
きらきら落ちてゆく流れ星  
ほんのりふわふわ飛ぶ蛍

同じ「光る」を集めてみても  
みんな違った光を放つ

私が放つ 私の光  
誰ともちがう 私の光  
遠くの君も照らせるような  
明るい光に  
私はなりたい

評

一連の各行が体言止たいげんどめになっていて、ああ、詩を書きなれている方だな、とまず感心しました。体言たいげんというのは、文字が示す通り、動かぬ体からだを持った言葉で、一行がしっかりと立ってくれます。読者にも物の姿や情景が目に見えてきますので、一行ごとにはっきりと胸におさまります。

山中さんは一連でそれぞれに異なる光ことを放つものを並べ、さて、と終連では自分が放つ光について考え、〈遠くの君も照らせるような／明るい光に／私はなりたい〉と、すこやかな恋こひころをもこめた、すてきな詩行でうたいおさめています。破れたところのない、よく調しらべった詩です。



優秀賞

Roof top

結城第二高等学校 三年 生井 綾乃

「階段駆け上がる方と駆け降りる方なら、君はどっちの方が好き？」

そう聞いて君は瞬間、

「駆け降りる方だね」

同感だと思った

息が苦しいほど切れたりだとか

足が疲れたりとか、しないもんね

そう思ってたんだけど

八月のある日 暑い空、空、空

電線を越えた景色がむしように

見たくなって

カンカンカンカン！ 感情のままに

鉄の階段駆け登って 駆け登って

屋上もう少し 白い雲そのまま掴めそう！

このまま空、飛んじやいそう！

着いて飛び込んでキラキラ

躍動する心臓がいつもより

体に血液をいっぱい流して

ああなんか、いつもの2倍生きてる感じ

生きてる感じ

君にも見せてあげたいな

この景色 この熱みたいなドキドキ

感じるものが多くなる 風が涼しい

とりあえずそうだ、もう夕方だから

君に今度会ったら教えてあげよう

「駆け上がる方もいいみたい！」って

評

階段駆け上がる方と駆け降りる方と、じつに単純きわまりない問答なのですけれど、読み終えた途端、「駆け上がる方もいいみたい！」と、おばあさんの私まで胸をドキドキさせながら、叫んでしまいたくなる、不思議な力を持った作品です。

これが若さというものなのでしょうね。とくに四連の表現がすばらしい。〈白い雲そのまま掴めそう！〉〈ああなんか、いつもの二倍生きてる感じ／生きてる感じ〉

階段だけでなく、何か特別に打ち込むものを見つけて、この調子で行けたら、素敵なんだけどもなあ！この人ならきつと見つける、そう思いました。

優秀賞

私の人生

結城第二高等学校 三年 齋藤 愛

この世界に生れる少し前に

私は大きな真っ白のキャンバスを貰った

彼は手渡しながらこう言った

「好きな色で好きなように描きなさい。

この砂時計は君の寿命だ。

砂が全て落ちた時、

君の描いた絵を見せてくれ。」

かつて生きる意味を問いかけた事がある

結局意味など何も無いだろう

それなら自由設定でもいいはずだ

だから私はこの一生をかけて描く

大きな絵を

美しい絵にするために生きよう

最高の絵を見せるんだ

タイトルは「私の人生」

評

この世界に生れる少し前、つまりお母さんのおなかにいる時に、〈彼〉から大きな白いキャンバスを手渡されたと書かれていますので、読者は一瞬「えっ？」とまじ惑わされるのですけれども、目に見えるように書こうという詩的表現の一種。一緒に渡された砂時計というのは、齋藤さんに

与えられた生せいの時間です。その二つを与えた〈彼〉とは、齋藤さんの運命をつかさどる〈神〉のことなのでしょう。  
これが私の人生だった、とのちの日に、悔いなく眺めることのできる、誠実な、美しい絵を描き続けてください。

### 優良賞

ざりがに つり

絹川小学校 一年 赤荻 三朗太

おにいちゃんと  
ざりがに つりにいった  
たんぼのすいろ

ぼくもおにいちゃんも  
ひとこともしやべらない  
あみをそうつとうごかす  
やったやったあ  
あみのなかで  
ざりがにがじっとしてる

びっくりしてるのかな  
なきそうかな

さきいかあげるから  
ゆるしてね。

優良賞

かげ

上山川小学校 一年 山崎 凜花

かげっておもしろい

はれたときしかでてこない

わたしのまねばかりする

にげてもにげてもおいかけてくる

ゴムみたいに

かげってすずしい

あさひるゆうて

ぼしよがかわる

かげってあせかかないのかな

あつくないのかな？

さむくないのかな？

おなかすかないのかな？

つかれないのかな？

かげってふしぎだな。

優良賞

あさがお

山川小学校 一年 中嶋 沙采

わたしよりもはやくおきるあさがお

わたしよりもはやくねてしまうあさがお

きのうはあおいあさがお

きょうはピンクのあさがお

あしたはなにいろのあさがおだろう

あさがおのはなはラッパみたい

みみをちかつけるとなにかきこえてきそう

はちやちようちよがあそびにきたよ

あさがおとおともだちになりたいのかな

たくさんあそんだからつかれたね

おやすみなさい

またあしたもあいたいな

優良賞

ぼくのやさい

江川北小学校 一年 猪瀬 理仁

れたす しやりしやり

きやべつ ぱりぱり

なすは やわらかい

きゆうり しやしやしき

おくらはねばねば

いもは ほくほく

ちんげんさいは

なまでもしやしきしやしき

いためでもしやしきしやしき

ぜんぶいっしよにサラダにしたら

いろんなおとの だいがっそう

優良賞

いもうとだいすき

江川南小学校 一年 石崎 篤輝

ぼくのいもうと 2さいのいもうと。

いつもほっぺをおおきくふくらませて、おくちをモグモグなにかをたべている。

ちよっともらおうとするとすぐあぶー。と

おこられる。

いつもおえかきをしている

くれよんで、ぐるぐるおえかき。

いろいろないろでぐるぐるおえかき。

ぼくがぐるぐるかいてあげると、

じょうずとほめてくれる

ちよっとうれしい。

ぼくのいもうと　2さいのいもうと  
びっくりするぐらい  
おしゃべりがじょうず  
たまにぼくもちゅういされちゃう  
どこでことばをおぼえるんだろう？  
ふしぎ

ぼくのいもうと　2さいのいもうと  
いつもうたをうたってる  
ぼくがしってるうた　しらないうた  
しらないうたは、いもうとがかんがえた  
うたなのかな  
ぼくもまねして、かんがえてみたけど  
あまりうかばなかった  
ぼくのいもうと　かわいいいもうと  
ときどきかたをたたいてくれる  
ぼくもたたいてあげると  
だいすきーと  
ぎゆうーとしてくれる  
そんないもうとが　だいすき

### 優良賞

わたしのおとうと

江川南小学校　一年　鈴木　璃子

「あかちゃんうまれたよ」  
わたしはおおきなこえでみんなにしらせた  
そのひ、あさおきたらいつもいるはずのママがいなかった  
ついにきたか！  
ドキドキソワソワしながらすぐごしていた  
ひるすぎにパパからのでんわ  
まちにまったおとうとのたんじょうだった

あのひからもうすぐ三ねん

まいにちまいにちはかわらないのに  
おとうとはもうあかちゃんじゃない  
わたしもおねえちゃん三ねんめだ  
おもちゃをかしたあげたり  
おかしをはんぶんあげたり  
ママのとなりでねるのをゆずってあげたり  
がまんすることもいろいろあるけど  
おとうとのことがとつてもかわい  
いとあそびがだいすきなおとうと  
かいものでおみせをはしりまわっちゃうおとうと  
みみそうじがきらいなおとうと  
かみなりをこわがるおとうと  
ぜんぶぜんぶだいすき  
うまれてきてくれてありがとう  
これからもずっとなかよしだよ

#### 優良賞

さよならピアノ

城南小学校 二年 西崎 紗彩

さよなら

さよなら

さよならピアノ

いっぱいひいて  
れんしゅうしたよ  
しっぱいもしたけどがんばったよ  
でも

新しいつるつるピカピカの

ピアノにかえちゃった

さよならピアノ

とおいところへいっっちゃうんだね

優良賞

のんびり

城西小学校 二年 石川 凜

まどから見える すずめ

ガラスにへばりつく カエル

にわの自てん車に 赤とんぼ

やさしい風

黄金色の田 ながめがいい

オイラは ねこ

外には 出たことがない

夕やけに うっとり

ねえさんに

毛をとかしてもらい

けなみは ツヤツヤ

しゅみは ツメとき

おやつは にぼし

ダイエツトしよくは

おことわり

びょういんで

犬が にらんでいる

だから まちあいしつはきらい

ゲージの中で かくれんぼ

ピアノの音に ウトウト

やっぱり 家がすきだ

うでにアゴをのせて

のんびりすごすのが

一ばんいい



優良賞

あい犬ルーブル

江川北小学校 二年 濱野 純名

ルーブルは茶色いからだにくろいかお  
大きなからだに長いしっぽ

左の目が青くてとてもきれい

かおのようがこまったかおにみえるのがすごくかわいい

わたしが帰ってくると、しっぽをぐるんぐるん回してとびはねる。

わたしはそれをみてギョッとだきしめる

ジャンプをして手をもって、いっしょにダンスする

おやつには、いっしょにきゅうりをがぶりつく

わたしのかおに、つめたいはなをくつつける

そんなルーブルがとってもとっても大すき

優良賞

ひまわり

江川北小学校 二年 増山 唯花

わたしは夏がすき。とってもあつい夏がすき。

たいようがすき。わたしは、あさから夕方までたいようを見てずっとお話してる。

ほかのだれよりも、せがたかくきれいにさきたい。

そうすれば、みんながわたしを見てくれる。

わたしを見て、きれいと言ってもらえることが、わたしは一ばんうれしい。

でも、たまには雨の日もある。

そんなとき、わたしはがまんする。早くたいようにあえるように。

そのために一生けんめいがんばる。

わたしのすきな色は黄色。

わたしはひまわり。

優良賞

おばあちゃん

江川北小学校 二年 村野井 瑠

おばあちゃん

ぼくはいつまでも大好きです

いつかまた

おばあちゃんがぼくを

しあわせな思いにしてくれる

そう信じて

ぼくはこれからを歩んで生きます

お空から見ているね

たとえ おばあちゃんが

遠いお空にいても

ぼくを見ていてね

ぼくをおうえんしていてね

ぼくを愛し続けていてね

優良賞

大切な家族

城南小学校 三年 板橋 由奈

わたしが生まれる前からの家族

小さな白い犬

名前はチャッピー

チャッピーはおじいちゃん

足もいたいし、こしもいたい

だからおさんぼはゆっくり

お昼ねの時は、わたしの足をまくらにしていっしょにねたね

春にはお庭にさいたすいせんの花のにおいをいっしょにかいだね

いつもいっしょにくっついて

ふわふわ

ほかほか

いいにおい

そばにいるだけで

お花畑にいるみたい  
いっぱい大好き  
でもね

わたしがようち園から帰ってきた

6月の晴れた日

天国におわかれ

ひまわりの花にかこまれて

ねむっているみたいなチャッピー

さみしくてさみしくて

会いたくて会いたくて

わたしはいつもおねがいでるよ

チャッピーが天国から帰ってきてますように

わたしは、チャッピーが大好き

会いたい

### 優良賞

ふくりん

結城小学校 四年 小林 優月

まんまるおなか

ぷくぷくしてる

泳ぎはゆっくり

ちよつと重そう

白いおひれがひらひらまっつて

ちようちよみたいにきれいだな

呼べば来るけど

ご飯の時は無視される

逆さまに寝ていたり

すき間にはさまっていたり

ちよつとまぬけな

かわいい金魚

優良賞

「穴」

城南小学校 四年 潮田 廉人

なんだ この穴  
しかもそこらじゅうにいっぱい  
なんの穴だろう  
砂はまでたくさんの穴を見つけた  
ふしぎでたまらない

じーっと見つめた  
暑い あせがポタポタたれていく  
あきらめようかな  
と、その時 穴からひよこつと目がでた  
まるでかんしカメラのロボットみたいだ  
ぼくも負けずにじっと見つめた  
ロボットの正体はちっちゃなカニだった

カニは まっしぐらに他の穴にかけ込んだ  
まるで忍者みたいにしゅん速だ  
友達と遊ぶ約束してたのかな  
何して遊ぶのかな  
ゲームかなそれともおにごっこかな  
かくれんぼかな  
カニと遊ぶの楽しそう  
ぼくもカニになつていっしょに遊びたいな

優良賞

すいかをそだてた

城西小学校 四年 小郷原 小太郎

六月にすいかを食べた  
すいかを食べたからいっぱいいたねが出てきた。  
白くてうすいたね。茶色のたね。

そして大きい黒いたね。  
ぼくの家の庭にたねをうえて、  
毎日水やりをした。  
そして、小さなめが出て、小さな葉っぱが、生えてきた。  
大きな葉っぱに、毎日つるがのびた  
きいろの花がさいた。  
ちようちよやはちも手伝って、  
すいかの実がでてきた。  
はじめはつめぐらいで、でもしましまもようでちいさなすいか。  
それが育って今はぼくの顔ぐらい。  
いつに食べられるかな。来週かな。  
でも食べたらなくなるぼくのすいか。  
それでもはやく食べたいな。

#### 優良賞

最新式のバス

山川小学校 四年 奥村 虎終

水陸両用バスに乗った。  
トンネルの中を走っていたのに  
湖の中にスプラッシュ!!  
このバス、船になった。  
おどろいた。  
そして、一番おどろいたのが、  
バスが最新式だった。  
ダム湖の中をぐるぐる回った。  
ダムも見えた。  
ダムの下から水が、  
ドバーンと飛びだしていた。  
ダムはとっても大きかった。  
水はとちぎから、  
いばらきも通っている。  
ぼくもでっかくて、  
最新式の人になりたい。

優良賞

川の世界

江川南小学校 四年 伊藤 有輝

魚がすいすい泳いでる  
太陽の光で 日なたぼっこ  
小ブナが、かげでかくれんぼ  
コイがバシヤバシヤ音をたてる  
気持ち良さそうに泳いでる  
山から流れるきれいな水  
けい流のつめたい水  
流れが少し弱くなり中流の流れになる  
オイカワ、カワムツ泳いでる  
ドジョウが川の水路でびゅんびゅんびゅん  
湖でタナゴがすいすいすいー  
最後はかこうボラやフグが泳いでる。

優良賞

水族館

結城西小学校 五年 坂本 芽生

みんなと同じ向きに泳ぐのが好きなイワシ。  
泳ぐのがヘタでデリケートなマンボウ。  
自分の力で泳げないけど気持ちよさそうなクラゲ。  
どうしようと泳ぐサメ。  
みんなそれぞれに楽しんでるんだね。  
形や性格がちがっても一つの水そうで生きている。  
みんなそれぞれに特ちょうをいかして、  
工夫をして生きているんだね。  
わたしはそれを見て、元気をもらおう。  
いやしてもらおう。  
わたしもがんばるよ。  
わたしらしくがんばるよ。

優良賞

木と雨と土

上山川小学校 六年 江田 康介

サワサワ

サワサワ

木が笑ってる

今もどかで

サワサワと

ザーザー

ザーザー

雨が泣いている

今もどかで

ザーザーと

サラサラ

サラサラ

土がねている

今もどかで

サラサラと

優良賞

生きている

上山川小学校 六年 清藤 奏太

毎日おきて

毎日ねる。

あたり前かも

しれないけど

これのくり返しで

一日一日生きている

優良賞

鏡の中

結城中学校 一年 垣谷 幸歩

友達に、ちょっとだけいじわるをした。

鏡の中にうつった私が、にたりと笑ったように見えて、こわかった。

友達は許してくれたけど、モヤモヤする。

鏡の中の私は、語りかけてくるように、じっと私を見つめてくる。

友達にあやまった。

あやまるっているのは、すごく大切なこと。

それを、鏡の中の私が、教えてくれた。

ふと、鏡を見ると、私に声をかけるように、鏡の中の私が、歯を見せて、笑っていた。

優良賞

雲

結城中学校 一年 笹川 蒼矢

自由気ままな君達は

風の吹くまま ふわふわと

世界中を旅している

上から下を見下ろして

全てを見聞きしていても

黙ってただただ流れてく

山の向こうに何がある？

海はどこまで広いんだ？

訪ねてみてもフワフワと

すまして通りすぎるだけ

おい雲よ 聞こえるか？

今度は側におりてきて

旅の話聞かせてよ



優良賞

暖かい春の声

結城南中学校 一年 石川 大和

氷柱がとけ、東風が吹く

さまざまな花の香

キジとウグイスの鳴き声が混じり

山笑う

雲のすきまから顔をのぞかせる朧月

見えたと思うとはずかしそうに隠れる

花曇りの中に隠れてしまう

立春が終わり春分も終わる

こんな良い一日を寝て過ごす

起きたときには、もう

かつこうが鳴いていた

優良賞

春の道

結城南中学校 一年 上野 颯斗

菜の花の間を

ゆつくりと

車を通る

風がふいて

きれいにゆれて

波が立っている

どこまでも

黄色い海を進む

自由な

船のようだ

優良賞

おじいちゃんの畑

結城東中学校 一年 佐藤 実羽

雨の日も

風の日も

おじいちゃんは

いつも畑にいる

トゲトゲしたきゅうり

つやつやしたなすとトマト

ピーマン

ゴーヤ

ブルーベリー

収穫が終わっても

畑で仕事をしている

おじいちゃん

次の野菜の

収穫の準備をする

おじいちゃん

新鮮で

安心な野菜を

家族に食べさせたいからと笑う

おじいちゃん

優良賞

こころ

結城南中学校 一年 廣江 有紀

ぬってみたい

赤で

青で

黄で

真っ白な君を

笑わせたい

泣かせたい

怒らせたい

無表情な君を

遊びたい

シーソーで

ブランコで

なわとびで

一人ぼっちな君と

君は一人じゃないんだよ

君と一緒に生きるんだ

君の事を忘れない

むかしみたいに話そうよ

目をそむけないで

むき合おうよ

次は絶対捨てないよ

君がいなくて僕はひとりぼっち

戻ってきてよ

僕の胸の中に

### 優良賞

俺の大切な仲間達

結城南中学校 二年 石嶋 梓

俺は自転車

乗りものだけ

主を乗せて走るんだ

毎日、主を乗せるから

よごれたり、サビついたりもするけれど

主が洗ってくれるんだ

だから、主が大好きだ  
友達だっているんだぜ  
タイヤくんやブレーキくん  
ベルちゃんライトくんスタンドくん  
一人ずつ紹介していくぜ  
空気が入ったタイヤくん  
いつもより、速く走れるぜ  
主を守るブレーキくん  
危険を察知し、急停止  
音で危険を知らせるベルちゃん  
リンリンリンと音を鳴らせば  
事故防止になるすごいだろ  
夜道をてらすライトくん  
太陽が沈んだら、彼の出番だ  
安心安全で帰宅できるぜ  
力持ちなスタンドくん  
俺の持ち上げ  
支えることが出来るんだ  
つとまあ、俺の友達は以上だぜ。  
おっ、星が出始めた  
主が帰る時間だぜ  
俺が自転車  
乗りものだぜ  
主を乗せて走るんだ

### 優良賞

野球はおもしろい

結城南中学校 二年 松本 輝

0対0

同点でむかえた最後の攻撃

この攻撃できめてやる

僕はチャンスの場面で打席に立った

ここで打てばこの試合は勝てる

相手ピッチャーがおもいっきり白球を投げた

僕はこの白球めがけておもいっきりバットを振った

「カキーン」

投げたボールはバットに当たり

広い大空へとすいこまれていった

打ったボールは外野のあいだをぬけていき

ヒットになった

ランナーはホームベースめがけてすべりこんだ

「セーフ！」

主審が声をあげた

この瞬間、勝ちが決まった

僕がこの試合でチームにこうけんできた

すごくうれしかった

改めて

「野球はおもしろい」と思った。

## 優良賞

「僕」

結城中学校 二年 及川 凌生

四百字もの羅列の中に

納まる僕のきもち

埋めることで精一杯な僕のきもち

四十キロもの重みの中に

納まる僕のいのち

溢れでるほどの僕のいのち

きもちといのち

似ているようで全然違う

僕の中にいる二人の僕

優良賞

自由

結城中学校 三年 ファンテミ フェン

私を閉じ込めないで  
ビンの中のジャムのように  
鳥かごの中の鳥のように

私を並べないで  
几帳面なクレヨンのように  
トランプの七並べのように

私は自由  
誰にも邪魔されず生きていく  
扉の向こうのように  
違う世界を知る

優良賞

小さな光

結城東中学校 三年 関塚 結菜

暗闇の中 一人さまよっている  
暗闇の中 何かを探し 何かを求め  
ただ一人歩き続けた

ふと見た先に 小さな光  
やっと見つけた 小さな光  
はるか遠くの小さな光は  
とても輝いて見えた

いつたどりつくか  
それは分からない  
でも また一人歩き続ける  
はるか遠くの 小さな光へ

優良賞

水たまり

結城南中学校 三年 西村 誠士郎

雨あがりの日

道路には水たまりができていた

ぼくは幼ない子どもみたいに

はしゃいで水たまりで遊んだ

水面に映るぼくは

ゆれていた

ゆれがおさまると

そこには新たな世界が広がっていた

そこにはもう一人のぼくがいた

ぼくが手を挙げると

もう一人のぼくも手を挙げた

ぼくが笑うと

もう一人のぼくも笑った

次の日

その場所に行くと

水たまりはなくなっていた